



化石の中には貝殻がよく見られますが、植物の化石や動物の骨化石もまれに見られることがあります。骨化石は動物一体分が丸ごと出ることがほとんどなく、その一部分の部位が産出することが一般的です。ですから、動物の骨格がどのような部位に分かれているのかをよく知っていることが必要です。海に堆積した地層には、鯨などの海棲ほ乳類が、湿地などに堆積した地層には、鹿や象などの陸棲のほ乳類の化石が産出します。大磯町の西小磯海岸に露出する大磯層では、鯨の脊椎や肋骨片がよく見つかります。愛川町小沢の中津層では、当時海岸線に近かったため、象・鹿・猿などの陸棲の化石と、鯨・亀などの海棲の化石とが産出しています。近隣では一般に海に堆積した地層が多いので、クジラの化石が比較的よく見つかります。今回の寄贈品コーナーでは、博物館で今まで収集した骨化石と、現生の脊椎動物（ほ乳類）の骨を比較して展示します。

展示標本

- 中津層のクジラ頭骨（愛川町小沢産）
- 中津層のクジラ脊椎骨（愛川町小沢産）
- 大磯層のクジラ脊椎骨（大磯町西小磯）
- 大磯層のクジラ肋骨（大磯町西小磯）
- 二宮層のクジラ脊椎骨（二宮町一色）
- 現生のクジラの骨（真鶴町福浦産）
- シロナガスクジラの脊椎骨
- ニホンムカシジカの骨格
- 吉沢層のシカの踵骨（平塚市上吉沢）
- シカの臼歯化石（平塚市上吉沢）
- 馬の臼歯（現生）
- 現生の馬の四肢骨（平塚市日向岡）
- 現生の馬の頭骨と下顎骨（平塚市東豊田）
- ナウマン象の臼歯（二宮町一色）
- マンモス象の臼歯

寄贈者：石川京一・大橋貴之・鈴木茂・横浜国立大学